

みどり戦略の広報に農政局若手職員が地域イベントで奮闘

農業祭りなどの地域イベントに出展しみどり戦略を広報。広報活動には部局を超えて若手職員が参加。「現場と農政を結ぶ業務」を体験、会場でアンケートなどを通じ「生の声」を聞き取り、市町に還元することで今後の農政に活かしていただく取組。

○ 施策分類

みどりの食料システム戦略

○ きっかけ・背景、課題の把握

みどり戦略について、関係機関には周知しているが、消費者の理解や関心を高めることが今後の普及に必要。

また、近畿農政局本局原課の若手職員（新規採用者及び経験者採用）は、局内での業務が多く、実際に生産者や消費者に直接触れ合う機会が少ない。

そこで、若手職員が地域イベントに参加し、施策の広報やアンケートなどを通じて、コミュニケーション能力の向上や日常の業務における自主性・主体性の向上を図る取組を行った。

○ 取組の内容

イベントの来場者に若手職員を中心に積極的に「みどり戦略」や「ニッポンフードシフト」等の広報を行うと共に、有機農業等に関するアンケートを実施。

消費者等から有機農業に対してのイメージや購入に関しての消費動向等について集計・集約したデータをグラフ化し、イベント実施主体（市町）に対して地域における消費者ニーズの現状をデータ還元。

○ 効果・成果、今後の方向性

若手職員からは、「直接、人と接して施策を伝える難しさ」を実感した旨の感想。また、データ還元した市町からは「地域の消費者等ニーズが把握でき、今後の地域農業（有機栽培）の参考になった」旨の回答があった。



来場者に対して積極的に広報に努める若手職員



“イベントはお祭り”
苦勞しながらも笑顔での
応接を心掛ける。

体制図

